

130歳を迎えた
津市の姿

津市長 前葉 泰幸



平成31年4月1日は津市生誕130周年の日になります。

廃藩置県の後、憲法の制定、国会の開設を機に近代国家にふさわしい本格的な地方自治制度の整備が望まれ「市制・町村制」、「府県制・郡制」が施行されました。明治22年4月1日、津市は全国の30市とともに、我が国初の「市」として誕生したのです。

市制は人口2万5,000人以上の市街地で、独立して行政をなす資力のある都市に適用されました。津市と時を同じくして指定を受けたのは、京都・大阪・横浜などの大都市や県庁所在地、弘前・米沢・高岡・下関・久留米といった歴史や伝統のあるまちです。

当時、津市の人口は2万7,000人(現在の10分の1)、面積は7.9km²(現在の100分の1)、県下で市制を施行できる唯一の地区でした。東海三県で唯一、日本最初の市となった津の隆盛を物語るのが、日露戦争直後の明治40年に2府20県が参加した「第9回関西府県連合共進会」です。

当時の産業・文化の集大成ともいえるこの地方博覧会は、桜の咲く4月1日から5月末まで偕楽公園、旧県立博物館、羽所町一帯を主会場として開催されました。会期中の入場者は77万9,000人。1日の入場者数が当時の津市の人口(3万8,000人)を上回る日もあったほどで、戦勝後の産業の躍進を反映したハイカラな博覧会の盛況ぶりがうかがわれます。

市制と同時に町村制も施行され、現在の津市の区域には2町(久居町・新町)と53村が誕生しました。それが、昭和30年頃の昭和の大合併までに1市6町4村に再編され、昭和45年には、久居町が

◆明治22年4月1日、
日本で初めて「市」として
誕生した31都市



市に移行します。市となる要件を人口5万人から3万人に引き下げる「三万市制特例法」の成立により、人口が3万3,000人であった久居町も市制施行が可能となりました。この法制化に向けて結成された「新市制実現全国期成会」の会長に選ばれ、その推進力となったのが当時の久居町長でした。ここにも全国に先駆け主導的な役割を担う先達の姿があります。

明治から昭和にかけて周辺の町村との合併を重ね、市域を拡大してきた津市は、平成18年1月1日をもって10の市町村が一つになり現在の姿となりました。人口28万人、三重県一の市域711km²を擁する都市として生まれ変わったのです。

10の旧市町村が持ち寄った合併時の約束ごとを一つ一つ着実に実行し、大型プロジェクトも成し遂げた今、新しい津市のあるべき姿を目指したまちづくりは区切りの時を迎えました。津市の大合併は、まもなく迎える改元とともに、歴史の上では平成時代の一つの出来事となろうとしています。

全国初の市制施行都市としての重み、三万特例市のリーダーとしての進取の気運、そして、歴史的にもつながりの深い8町村の豊かな資源と繁栄の系譜が融合して醸し出す都市の風格。新しい時代の幕開けとともに、県都としてふさわしい市民生活の実現に向け、津市も第一歩を踏み出します。

「TV版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索

市長の活動日記から



✓第14回津シティマラソン大会
サオリーナ杯2019…2月10日
スペシャルゲストに吉田沙保里さんが登場。サオリーナが発着点となった新コースを過去最多の4,175人が満喫しました。



✓国道23号中勢バイパス(鈴鹿・津工区)開通式典…2月17日
事業開始から35年。河芸町三行と鈴鹿市御園町を結ぶ2.9kmが繋がったことで津市内20.6km区間が全線開通となりました。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

津市長活動日記

検索